

令和 2 年 5 月 18 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C) (特設分野研究)

研究期間：2017～2019

課題番号：17KT0120

研究課題名(和文) グローバルな学生移動のアジアからの再考：欧米比較と新たなモデルの提示

研究課題名(英文) International Student Mobility in Asia: Through a case study of ethnic minority students and a comparative analysis with Europe

研究代表者

石川 真由美 (Ishikawa, Mayumi)

大阪大学・グローバルイニシアティブセンター・教授

研究者番号：90379230

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、従来、欧米の視点から理解されてきた、国境を越えた学生移動(「インターナショナル・スチューデント・モビリティ」あるいはISM)をアジアの視点から再考するため、統計や政策分析に加えて学生や家族のエージェンシーに注目し、域内ISMの特性とその可能性を明らかにした。具体的には、少数民族である中国朝鮮族の東アジア域内への留学に注目し、彼らが「エスニック資本」を戦略的に生かし、留学を契機として、社会的・身体的に高い移動性を獲得する様子を明らかにした。そして、欧州で政治主導により公的に推進されるトップダウン型のISMの例と比較して、よりインフォーマルな地域統合の可能性を示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来の研究においてアジアは学生送り出し地域と理解されてきたが、近年、留学生受入地域としても世界で存在感を高めている。本研究は、アジアへの留学が欧米の代替地として二次的に選択されるのではなく、域内出身の学生の社会的・身体的な移動性向上に極めて重要な役割を果たすことを明らかにした。少数民族である中国朝鮮族は、高いアジア言語能力や異文化適応力を最大限に生かし、戦略的なアジア留学を経て、ホスト社会における主流化と社会的地位の向上を果たし、中にはアジアを起点に欧米への移動を達成し、ホスト社会において同胞の地位向上に貢献するなど、草の根地域統合にも大きな役割をになっていることを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：The research captures the salient and emerging features of intra-Asian international student mobility (ISM) through a case study of minority ethnic Korean-Chinese (chaoxian-zu) students from the northern provinces of China. With degrees from universities in Korea and Japan, competency in three Asian languages, tri-cultural understanding, and demonstrated adaptability, chaoxian-zu students transcend national and cultural spaces in increasingly transnational business and quotidian life environments across East Asia. ISM within East Asia, promoted by the internationalization policies of states and institutions, is primarily driven by aspirations of individual students and families. Such actor-driven character of ISM in Asia exhibits a marked contrast with European ISM, which tends to be more formal and promoted by top-down initiatives.

研究分野：文化人類学

キーワード：移動・越境 学生移動 留学 国際化 高等教育 アジア人材 教育政策 比較研究

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

世界の留学生数は1970年代から5倍以上に増え、500万人を超えたと推定されるが、その半数以上がアジア出身である。すなわち、アジアは国境を越えた学生移動(「インターナショナル・スチューデント・モビリティ」あるいはISM)の核(コア)地域である。しかし、これまで学生の国際移動は、主に欧米ホスト国の視点から「東西」「アジアの学生 欧米の大学」というステレオタイプで研究されてきた。アジアは今世紀の急速な大学国際化と積極的な留学生誘致策により、もはや単なる学生送り出し地域ではなく、近年は留学生の受入地域としても存在感を増大させている。従って、本研究はグローバルなISMをアジアの視点から修正し、理解することを問題意識と設定した。

## 2. 研究の目的

本研究は、従来、欧米の視点から理解されてきたISMをアジアの視点から再考することを目的とする。そして、地域内の国家間・大学間で激化する「競争」と人材流動の推進による「協調」を牽引力として拡大する東アジア型のISMを欧米のISMモデルと比較し、新たなアジア型ISMの可能性を提示する。具体的には、近隣国の大学に留学経験をもつ中国朝鮮族というエスニック・マイノリティに注目し、彼らの韓国や日本の大学への留学とその後のキャリアの事例を通して、ISMが身体的・社会的モビリティに果たす機能を明らかにする。さらに、このような新しいアジア人材(cf. Collins, Ho, Ishikawa, & Ma 2016)の活躍と社会的上昇を通して、学生移動のもたらすボトムアップの地域内協調の可能性を提示する。

## 3. 研究の方法

研究代表者は実証的な人類学の方法を用いつつ、メンバーや研究協力者の専門的知見、地域や言語についての知識を生かし、研究を実施した。例えば、教育学の政策分析、人類学のミクロな事例研究、地域研究の比較分析といった関連分野の方法・特徴を取り入れた学際的な研究を行った。代表者・石川は、これまでの研究成果も踏まえ、各国の競争政策と学生流動への影響について取りまとめと分析を行い、域内の大学に留学した新しいアジア人材である朝鮮族の事例調査をソウル・釜山・大連および日本の各地にて実施した。研究分担者・李は中国の政策と留学生動向調査を担当し、日本と大連・上海における聞き取り調査を実施した。対象者は、朝鮮族の学生と留学経験者、学齢期の子ども親、日系企業の雇用者等である。なお、日本における朝鮮族研究者のネットワークからも多くの示唆と助言を得た。

## 4. 研究成果

本研究では、統計や国家の留学生誘致や国際化についての政策分析に加えて、学生個人や家族のエージェンシーに注目することで、アジア域内ISMの特性とその可能性を明らかにすることができた。少数民族である中国朝鮮族の東アジア域内への留学を通して、彼らが「エスニック資本」

を戦略的に生かし、留学を契機として、社会的・身体的に高い移動性を獲得する様子を明らかにした。また、彼らの一部はホスト社会においてしばしば周縁化されがちな朝鮮族全体の代弁者として、エスニック・グループのメインストリーム化をも先導していることを示すことができた。このようなアジア人材が、いかにインフォーマルな地域統合に貢献するかについては、可能性は提示できたが、今後さらなる研究が必要と考えられる。そして、欧州で政治主導により公的に推進されるトップダウン型の ISM の例と比較して、このようなボトムアップ型のアジアの ISM は、インフォーマルなネットワークを基盤とするアジア型のリージョナリズム(Katzenstein, 2003, 2015)と軌を一にすることを指摘した。

参考：

Collins, F. L., Ho, K. C., Ishikawa, M., & Ma, A. H. S. (2017). International Student Mobility and After-Study Lives: the Portability and Prospects of Overseas Education in Asia. *Population, Space and Place*, 23(4). <https://doi.org/10.1002/psp.2029>

Katzenstein, P. J. (2003). Japan, technology and Asian regionalism in comparative perspective. Arrighi, G, Hamashita, T & Selden, M (Eds.) *The Resurgence of East Asia: 500, 150 and 50 Year Perspectives*. London: Routledge.

Katzenstein, P. J. (2015). *A world of regions: Asia and Europe in the American imperium*. Cornell University Press.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 李, 明 石川, 真由美	4. 巻 23
2. 論文標題 中国朝鮮族の留学と移動 : 東アジア域内の学生移動を考える	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 多文化社会と留学生交流 : 大阪大学国際教育交流センター研究論集	6. 最初と最後の頁 19-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) info:doi/10.18910/71583	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 石川真由美	4. 巻 56
2. 論文標題 国際競争と日本の大学 : 世界大学ランキングという鏡を通して	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 比較教育学研究	6. 最初と最後の頁 140-149
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 石川真由美	4. 巻 10月号
2. 論文標題 大学間交流と世界大学ランキング:現状と変化	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 留学交流	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Sidhu, Ravinder and Mayumi Ishikawa	4. 巻 -
2. 論文標題 Destined for Asia: Hospitality and Emotions in International Student Mobilities	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Compare: A Journal of Comparative and International Education	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/03057925.2020.1771544	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 1件／うち国際学会 4件）

1. 発表者名 Ishikawa, M. & Ming Li
2. 発表標題 East Asia's bottom-up Erasmus? Re-thinking international student mobility through an ethnic minority case study and a regional comparative analysis
3. 学会等名 15th International Migration, Integration and Social Cohesion (IMISCOE) Annual Conference, Universitat Pompeu Fabra, Barcelona, Spain, July 4, 2018.. (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石川真由美, 李明
2. 発表標題 グローバルな学生移動のアジアからの再考：朝鮮族を例として
3. 学会等名 朝鮮族研究学会2018年度第3回研究会（関西）, 2018年7月 14日 大阪経済法科大学OUEL研究センター
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ishikawa, Mayumi
2. 発表標題 Internationalization and the precarious future of research universities in Japan
3. 学会等名 “The purpose of the future university,” Philosophy of higher education conference, Aarhus University, Denmark. (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 李明, 石川真由美
2. 発表標題 アジア域内の留学生移動に関する研究：中国の朝鮮族を事例に
3. 学会等名 日本比較教育学会第55回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ishikawa, M. and Ming Li
2. 発表標題 International Student Mobility and Bottom-up Regionalism in East Asia: A case study of minority ethnic Korean-Chinese students
3. 学会等名 Conference entitled "Study Abroad and Transnational Mobility: Policy and Practice" organized by the Center for Multiculturalism and Social Policy, Daegu University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ishikawa, M. and Ming Li
2. 発表標題 Minority student mobility and bottom-up regionalism in East Asia: Through a study of ethnic Korean-Chinese with Asian university degrees
3. 学会等名 The 11th International Convention of Asia Scholars (IACS 11), Leiden University. (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ishikawa, M.
2. 発表標題 Between Local Distinction and Global Reputation: University Rankings and Changing Employment in Japan
3. 学会等名 Seminar at the Department of Educational Studies, Faculty of Education, The University of British
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Ishikawa, Mayumi	4. 発行年 2020年
2. 出版社 University of Toronto Press	5. 総ページ数 -
3. 書名 "Between Local Distinction and Global Reputation: University Rankings and Changing Employment in Japan" in M. Stack ed. Global University Rankings and the Politics of Knowledge.	

〔産業財産権〕

〔その他〕

大阪大学研究者総覧 石川真由美  
<http://www.dma.jim.osaka-u.ac.jp/view?u=4866>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	LI MING  (Li Ming)  (50778107)	大阪大学・グローバルイニシアティブセンター・特任助教 (常勤)    (14401)	